

修士の学位申請に関する手続き及び審査体制・基準等について

1 修士の学位

修士課程または博士課程前期課程に所定の期間在学し、当該研究科所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたのち、当該課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び試験に合格した者は、その課程を修了した者とされ、修士の学位が授与されます（大学院学則第 24 条、第 26 条）。

2 修士論文審査体制・方法

(1) 審査体制

修士論文または課題研究レポートの審査は、研究科委員会の定める審査委員によって行います。

審査委員は、当該修士論文または課題研究レポートに関連ある研究領域の教員 3 名以上とし、主査を 1 名、副査を 2 名以上とします。ただし、特別の事情がある場合には副査を 1 名とすることがあります。

(2) 審査方法

① 最終試験

修士の学位に関する最終試験は、修士論文または課題研究レポートの提出者の研究成果を確認する目的をもって、審査委員が修士論文または課題研究レポートを中心とし、試問の方法によって行います。試問は、口頭によりますが、筆答試問を併せ行うことがあります。

② 審査期間

修士論文または課題研究レポートの審査及び最終試験は、当該修士論文または課題研究レポートの提出期限後 3 カ月以内に終了します。

③ 審査結果

修士論文または課題研究レポートの審査及び最終試験の結果は、研究科委員会の承認を得て決定します。

3 修士学位論文審査基準

本研究科博士課程前期課程では、外国語教育学専攻の中に、外国語教育学、異文化コミュニケーション学、通訳翻訳学の 3 領域を設置している。学位を得ようとする者は、研究対象言語に対する深い理解とその運用能力を備え、所定の単位を修め、上記の 3 領域のうち自己の所属する専門領域における課題の探求において一定の成果を挙げた修士論文もしくは課題研究レポートを提出し、最終試験（必ず口頭試問を含む）に合格しなければならない。

修士論文及び課題研究レポートの審査項目を以下に定める。それぞれの項目において、一定以上の水準を有すると判断される修士論文あるいは課題研究レポートを合格とし、これを修士学位取得に相当する修士論文あるいは特定の課題についての研究の成果として認定する。

(1) 修士論文審査項目

- ア 論旨が一貫しているか。
- イ 先行研究・関連研究を十分に踏まえているか。
- ウ 研究手法・データの扱いが適切であるか。
- エ 研究の意義、重要性が十分に示されているか。
- オ 結論の妥当性が十分に検討されているか。
- カ 表記・文法上の誤りがないか。
- キ 執筆要領の書式に準拠しているか。

(2) 課題研究レポート審査項目

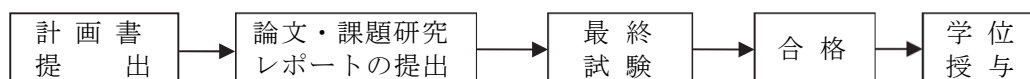
- ア 下記の「課題研究とは何か」のア～キが適切に記述されているか。
- イ 研究手法・データの扱いが適切であるか。
- ウ 論旨が一貫しているか。
- エ 結論の妥当性が十分に検討されているか。
- オ 表記・文法上の誤りがないか。
- カ 執筆要領の書式に準拠しているか。

(課題研究とは何か)

課題研究とは、本研究科の研究領域に関わる分野において、実践的な活動を通して研究を行い、その成果を報告するものである。本研究科の認める課題研究は、教材開発、カリキュラム開発、教育研究用ツール（ソフトウェアも含む）の開発・翻訳通訳などの諸領域における実践及びそれに対する研究・注解などであり、具体的な方途、成果物を提示しなければならない。課題研究レポートは、以下に述べる諸要素に関する記述を含むことが望ましい。

- ア 当該課題が設置される領域の現状に対する客観的な分析。
- イ 当該課題に関係する先行的な研究・実践に対する概観、分析、評価。
- ウ 当該課題を解決することの意義。
- エ 当該課題を解決するために考案された具体的な方途。
- オ エの考案にあたって依拠した理論、フレームワーク。
- カ エを実地に適用する際に必要な具体的手順の解説、マニュアル。
- キ エを実地に適用した結果に対する第三者の評価（成果物作成過程におけるフィードバックも含む）

4 学位授与までの主な流れ



5 スケジュール

詳細な日程は、別紙「提出要領」を参照してください。

期 限（期 日）		
事項	3 月期学位授与	9 月期学位授与
計画書の提出	10 月中旬	4 月中旬～下旬
論文の提出	1 月中旬	7 月中旬～下旬
最終試験	2 月中旬	7 月下旬～9 月上旬

※修士論文・課題研究レポートの提出については、指導教員とよく相談してください。

6 修士論文提出要件

修士論文は、学位規程第9条に基づき、修士課程または博士課程前期課程に1年以上在学し、所定の授業科目のうち、20 単位以上を修得後に学位取得計画書を提出しなければ、提出することができません。

また、上記に加えて、外国語学力確認（1カ国語）に合格しなければなりません。ただし、入学試験での受験外国語または口頭試問をもって、外国語の学力確認を行ったものとして、これを免除します。

7 修士論文計画書の提出について

- (1) 計画書は、別紙「提出要領」を確認のうえ提出すること。
- (2) 期限は厳守すること。期限後はいかなる理由があっても受理しない。
- (3) 修士論文・課題研究レポート計画書提出に際しては、指導教員の承認を得ること。
- (4) 論題は、執筆要領の執筆言語で指示する言語で作成すること。
- (5) 計画書提出後における、修士論文または課題研究レポートの種別変更は、原則として認めない。
- (6) 既に提出した計画の変更は、これを認めない。ただし、論文提出以前においては、指導教員の承認を得て論題に限り再提出することができる。
- (7) 計画書を提出したが、修士論文または課題研究レポートを提出しない場合には、指導教員の承認を得てその旨を教務センターへ報告すること。